



2009年度 第2四半期 決算説明会

(2009年4月～9月)

富士フイルム ホールディングス株式会社

2009年10月30日



注意

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

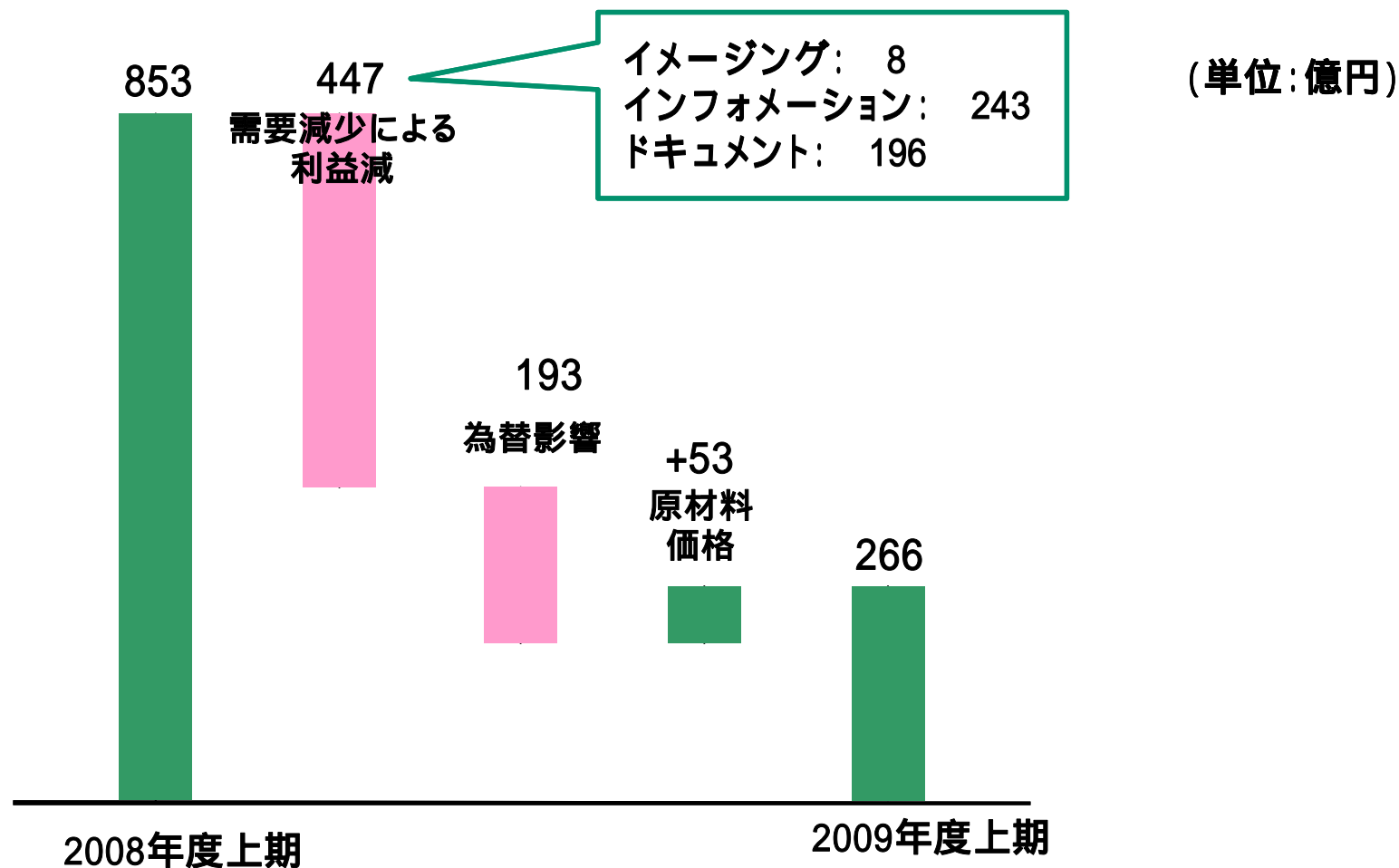
2009年度上期連結業績

為替円高に加え、世界不況に伴う需要の減少の影響を受け、減収減益
構造改革は計画を上回るペースで進捗

(単位:億円)

	2008年度 上期		2009年度 上期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	13,384	100.0%	10,435	-2,949	-22.0
構造改革費用前 営業利益	6.4%	853	2.5%	266	-587	-68.8
構造改革費用	0.3%	41	3.3%	352	311	-
構造改革費用後 営業利益	6.1%	812	-0.8%	-86	-898	-
税金等調整前 四半期純利益	6.1%	817	-0.8%	-80	-897	-
当社株主帰属 四半期純利益	3.4%	453	-0.5%	-54	-507	-
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益		89.97円		-11.07円		-101.04円
為替 : 米ドル		106円		96円		-10円
: ユーロ		163円		133円		-30円

■ 構造改革費用前営業利益増減要因 (対2008年度上期)



2009年度第2四半期連結業績



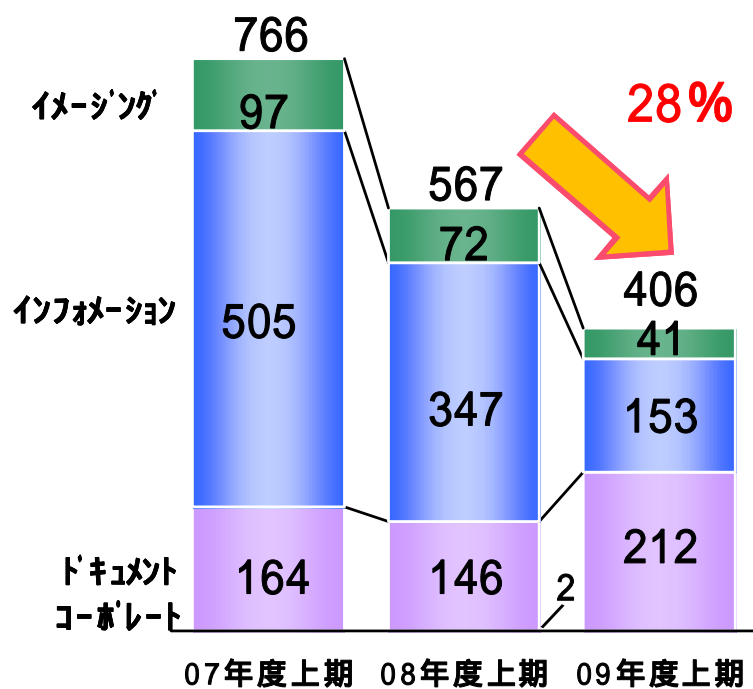
構造改革が功を奏し、構造改革費用前営業利益が大幅改善

(単位:億円)

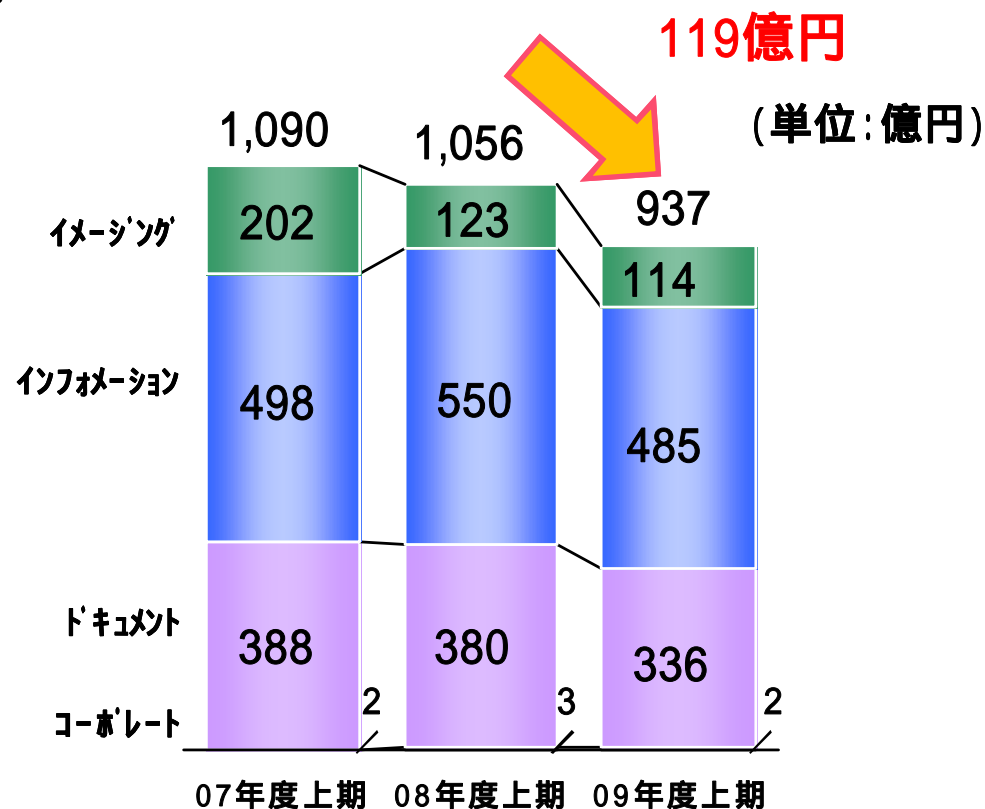
	2008年度 第1四半期		2008年度 第2四半期		%	2009年度 第1四半期		2009年度 第2四半期		%
売上高	100.0%	6,537	100.0%	6,847	4.8	100.0%	5,024	100.0%	5,411	7.7
構造改革費用前 営業利益	7.3%	476	5.5%	377	-21.0	1.5%	76	3.5%	190	151.9
構造改革費用	0.3%	17	0.3%	24	-	2.0%	103	4.6%	249	-
構造改革費用後 営業利益	7.0%	459	5.2%	353	-23.1	-0.5%	-27	-1.1%	-59	-
税金等調整前 四半期純利益	8.4%	550	3.9%	267	-51.4	0.2%	12	-1.7%	-92	-
当社株主帰属 四半期純利益	4.9%	319	2.0%	134	-57.9	-0.1%	-7	-0.9%	-47	-
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	63.31円		26.66円		-36.65円	-1.42円		-9.65円		-8.23円
為替 :米ドル	104円		108円		4円	97円		94円		-3円
:ユーロ	163円		162円		-1円	133円		133円		-

設備投資選別強化により設備投資・減価償却費は減少

■ 有形固定資産の設備投資額

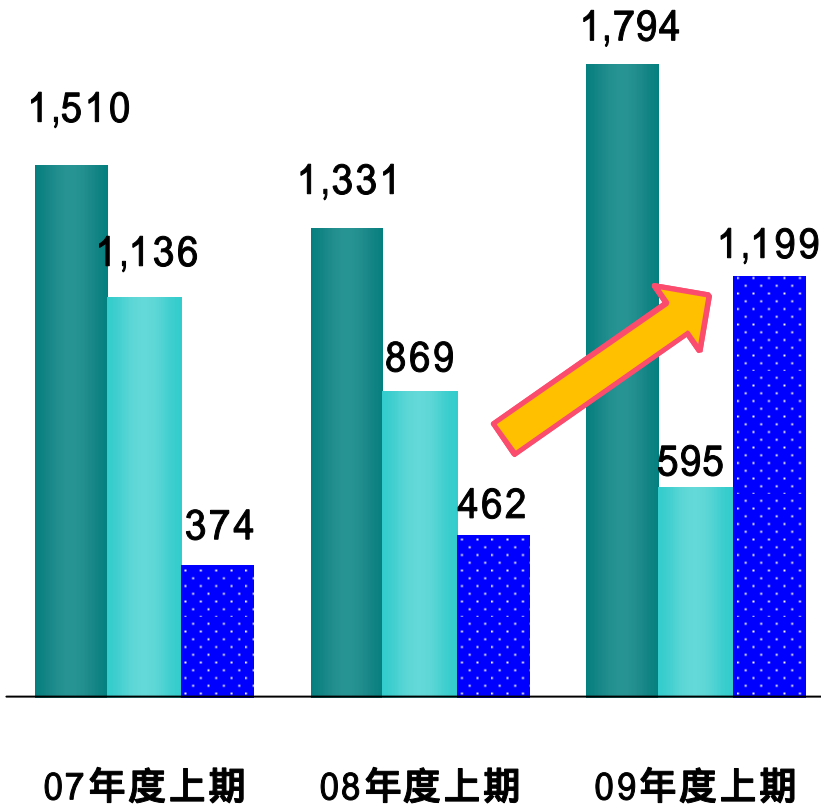


■ 減価償却費



厳しい事業環境のなか、設備投資の選択と 在庫削減によりフリーキャッシュフローは大幅に改善

■ 営業活動CF 投資活動CF フリーキャッシュフロー



(単位: 億円)

キャッシュフロー		08年度上期	09年度上期
四半期純利益		512	-47
減価償却費		1,056	937
受取債権の減少		323	300
棚卸資産の増減		-103	351
営業債権の減少		-224	-74
未払法人税等他負債の増減		-387	79
その他		154	248
営業活動によるCF		1,331	1,794
設備投資		-829	-426
有価証券・投資有価証券等の売却・購入		75	-36
その他		-115	-133
投資活動によるCF		-869	-595
フリーキャッシュフロー		462	1,199

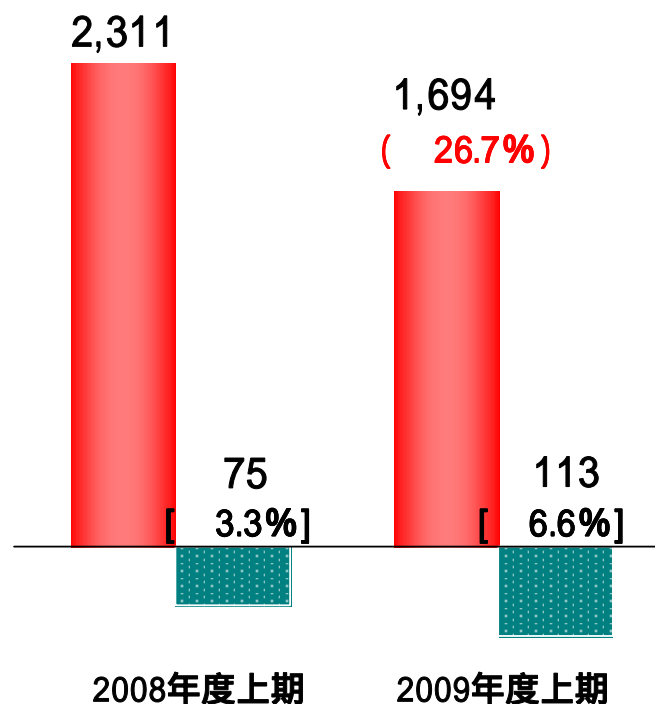
737億円改善

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益

- 売上高
- 営業利益 (構造改革費用前)

単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年比



売上高

1,694億円 (前年比 26.7%減)

- 需要減少によるカラーフィルム等の販売減に加え、為替の円高影響により減収。
 為替円高影響 236億円

営業利益

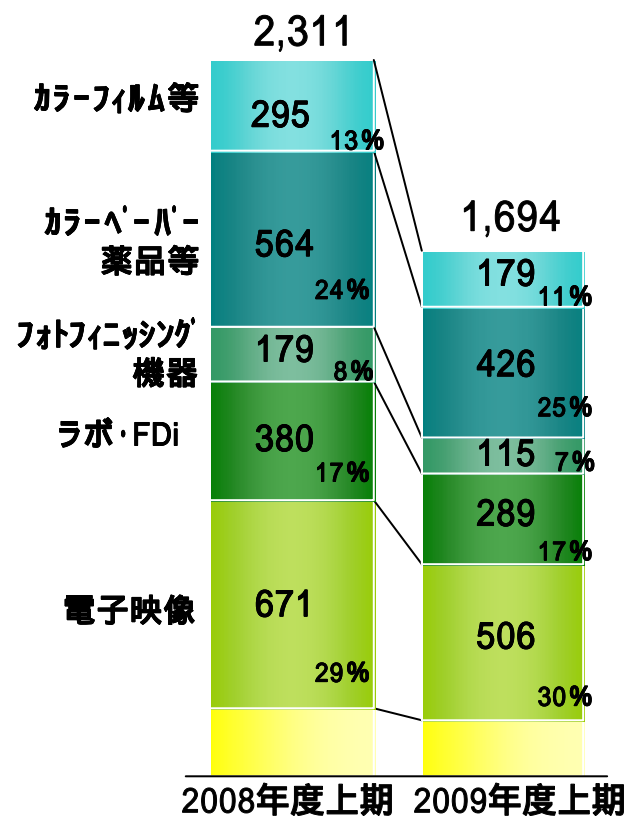
構造改革費用前 113億円
 構造改革費用後 208億円
 (前年比共に赤字拡大)

- イメージング事業全体では、売上の減少や為替の影響により、減益。

*セグメント間取引消去後

サブセグメント売上高

単位: 億円
%: 売上構成比



カラーフィルム等

179億円 (前年比: 39%減)

- 市場縮小による売上減少が継続。

カラーペーパー・薬品等

426億円 (前年比: 24%減)

- フォトブックやオンラインフォトサービスなどの付加価値プリントの販売促進施策を展開。主要国でシェア拡大施策推進。

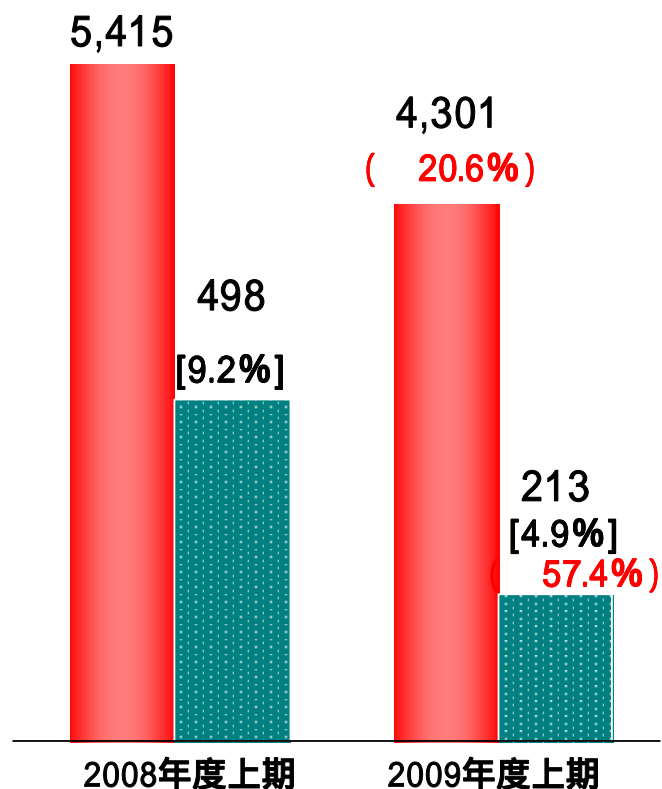
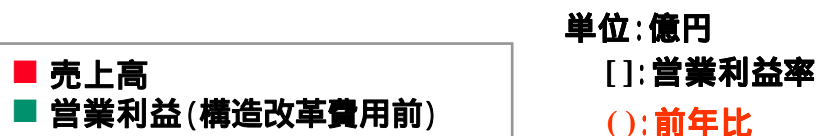
電子映像

506億円 (前年比: 25%減)

- 円高や単価下落により売上は減少するも、原価コストダウン・固定費圧縮・在庫削減等によりオペレーショナルベースで黒字を確保。
- 上期のデジタルカメラ販売台数は、ワールドワイドで約400万台。
- 「FinePix F70EXR」「FinePix REAL 3D System」等に代表される高付加価値商品で差別化を図る一方、「A170」「A220」等コスト競争力を強化したエントリーモデルを展開し、特にBRICs等で販売を伸張。

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益



売上高

4,301億円 (前年比 20.6%減)

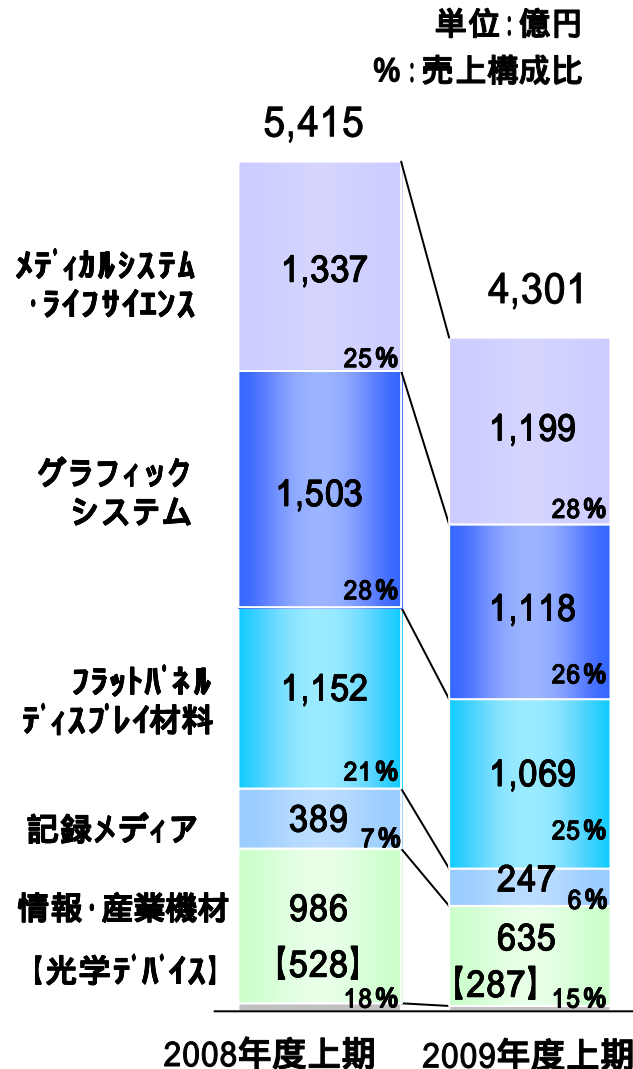
- 世界的な景気後退の影響を受けグラフィック事業や光学デバイス事業の売上が減少したことにより減収。
- 為替円高影響 290億円

営業利益

構造改革費用前 213億円 (前年比 57.4%減)
構造改革費用後 49億円 (前年比 89.7%減)

- 主要製品の販売数量の減少、為替の円高の影響により減益。

サブセグメント売上高



メディカルシステム・ライフサイエンス

1,199億円 (前年比: 10%減)

- 景気後退、及び国内における昨年の診療報酬改定影響によるフィルムの需要減などにより、売上が減少。
新興国市場では小型FCRを軸に販売強化を推進中。
- 「SYNAPSE」等の医用画像情報ネットワークシステムの売上は順調に拡大。

グラフィックシステム

1,118億円 (前年比: 26%減)

- 景気後退の影響により、売上が減少。
中国・東南アジアでは刷版需要が回復傾向。
- デジタルプリンティング分野では、ワイドフォーマットインクジェットシステムの販売が堅調に推移。

フラットパネルディスプレイ材料

1,069億円 (前年比: 7%減)

- 偏光板メーカー・パネルメーカーの在庫調整が一巡。中国政府の内需振興政策も寄与し「フジタック」「WVフィルム」の販売が急回復。
- 09年7月に「WVフィルム」第9工場本格稼働。

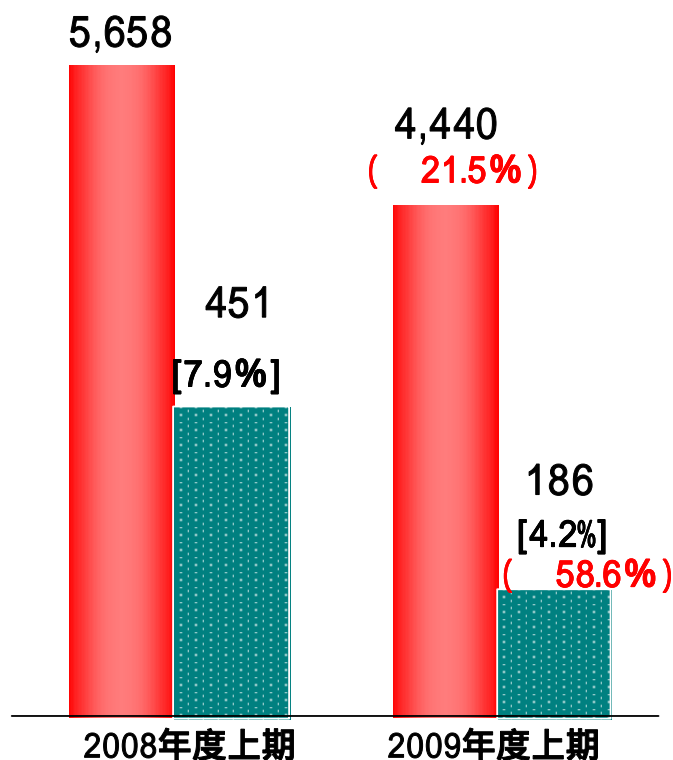
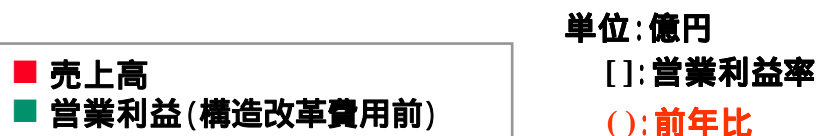
情報・産業機材

635億円 (前年比: 36%減)

- 光学デバイス分野で、世界的な景気後退の影響が継続するもののカメラ付き携帯電話用レンズユニット等の受注が回復傾向。

■ ドキュメント ソリューション

売上高*・営業利益



売上高

4,440億円 (前年比 21.5%減)

- 先進国を中心とした需要の低迷に加えて、為替の円高による影響などにより減少したが、中国など一部のアジア地域は回復基調。
- 為替円高影響 245億円

営業利益

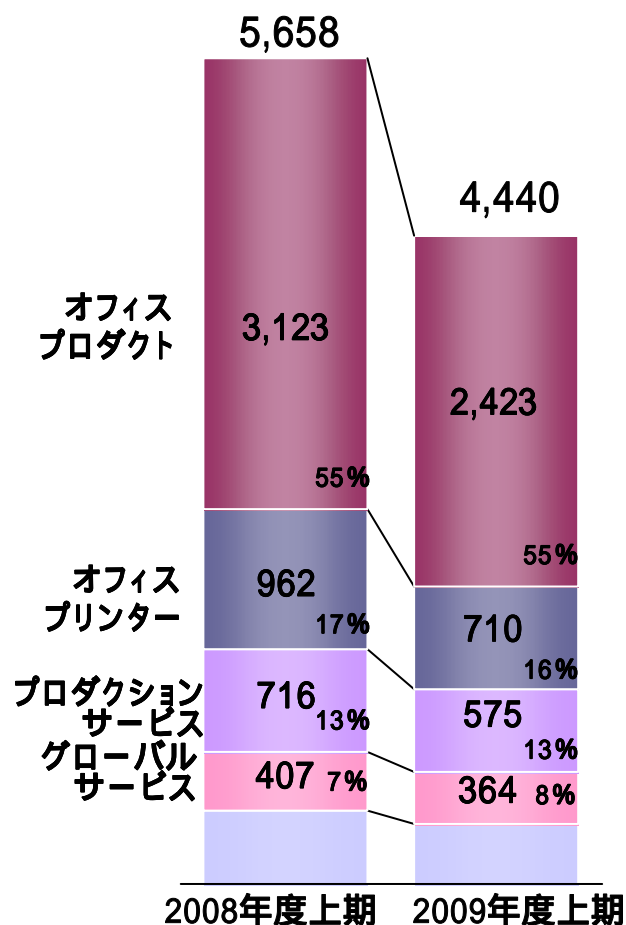
構造改革費用前 186億円 (前年比 58.6%減)
 構造改革費用後 93億円 (前年比 77.7%減)

- 売上高減に対応した販売直接費の管理強化と一般管理費の効率化に取り組んだものの、売上総利益の大幅な減少により減益。

*セグメント間取引消去後

サブセグメント売上高

単位：億円
%：売上構成比



オフィスプロダクト

2,423億円 (前年比: 22%減)

- 国内は、企業の設備投資抑制の影響で販売台数が減少したが、コピー枚数は緩やかな回復基調。
- 米国ゼロックス社向け輸出は減少したが、アジア・オセアニア地域では中国市場の販売台数が増加。

オフィスプリンター

710億円 (前年比: 26%減)

- 国内及び米国ゼロックス社向け輸出では、需要の減少により販売台数が減少。
- アジア・オセアニア地域は、中国やオーストラリアでの販売台数が大きく増加。

プロダクションサービス

575億円 (前年比: 20%減)

- ライトプロダクション・カラーシステム「700 Digital Color Press」の販売が好調。
- アジア・オセアニア地域では、ライトプロダクション・カラーシステムが牽引し販売台数が増加。

グローバルサービス

364億円 (前年比: 11%減)

- 景気悪化の影響により、売上が減少したが、マネージド・プリント・サービスが伸長。

構造改革及び成長戦略の 進捗状況

上期は、計画を上回るペースで順調に進捗

(単位:億円)

【内訳】

	上期実績	人員関連	資産関連
イメージング	95	65	30
インフォメーション	164	104	60
ドキュメント	93	85	8
構造改革費用計	352	254	98

国内外各社における人員スリム化、現像所統廃合、カラーペーパー製造工程の一部停止(オランダ)など

国内外各社における人員スリム化、資産圧縮など

経営革新活動

下期で構造改革費用 1,100億円計上予定

イメージング・インフォメーション

- ✓ 欧・米・中国・アジア等エリア毎に各現地法人の間接機能を地域本社に集約
- ✓ フォト事業を中心とした固定費の大幅削減 など (国内外の全てのグループ会社の全部門・全事業を対象)

ドキュメント

- ✓ 経営革新活動の加速と拡大
 - ・ R & D機能の再編・集約
 - ・ 生産機能の最適化、原価低減の徹底推進
 - ・ 経営革新活動の海外への展開

徹底的コストダウンと商品力強化により2009年度は損益大幅改善の見込み

コスト競争力強化

20%以上のコストダウン実現

- 中国自社工場のマザー工場化による内製比率の増加
- 中国ローカルベンダー部品の直接購買
- ODMパートナーとの関係強化
- 生産調達のリードタイム短縮により在庫大幅圧縮
(在庫月数 1.5ヶ月以内をキープ)

商品力強化

当初計画を上回る900万台以上の販売台数見込み

- 高付加価値・差別化戦略と低価格戦略による多機種展開
 - 革新的技術(3Dシステム、Super CCD ハニカムEXR)
 - 低価格・新興国モデル:
販売地域に応じたカスタマイズ戦略



3Dデジタルカメラ
FINEPIX
REAL 3D W1



新興国モデル「A170」
1000万画素、3倍ズーム

FinePix F70EXR

富山化学工業(株)による医薬品事業の拡大展開

インフルエンザ治療薬「T-705」 国内でフェーズ 臨床試験開始(2009年10月29日～)

今後、日本の他、韓国・台湾でも実施する予定

- ✓ 季節性インフルエンザ患者でのフェーズ 臨床試験において薬効を確認済み
既存薬とは違った新規メカニズムであるRNAポリメラーゼ阻害剤の薬効をはじめてヒトで確認
- ✓ 国内の動物実験で、豚由来の新型インフルエンザでの効果を確認済み
- ✓ ベトナムでのH5N1型鳥インフルエンザ患者向けの臨床試験を準備中
- ✓ インフルエンザ感染拡大が社会的問題となる中、企業の責任において迅速に生産に入れるよう準備を推進

富山化学の上期売上が1.5倍に拡大(対前年上期)

- ✓ 「ゾシン(2008年度発売)」、「ジェニナック(2007年度発売)」の販売が好調に推移
「ゾシン」:敗血症、腎盂腎炎、複雑性膀胱炎、肺炎に適応を持つ薬剤
「ジェニナック」:呼吸器、耳鼻科領域の感染症に適応を持つ薬剤

「オゼックス細粒小児用15%」製造販売承認取得

- ✓ 現在、難渋している小児の肺炎・中耳炎の治療に新たな選択肢



富山化学の研究開発・生産拠点 富山事業所

緩やかな回復基調により下期は増販トレンドへ

フラットパネルディスプレイ材料事業

液晶市場回復により、安定した進捗の見込み

- ✓中国市場を中心に液晶テレビの需要伸長
- ✓VA位相差フィルム、TAC新製品でのシェア拡大

光学デバイス

緩やかに受注回復

- ✓カメラ付き携帯電話用レンズユニットは受注回復傾向

メディカルシステム事業

医療機関の投資意欲は依然冷え込むが、新製品投入効果により増販を見込む

- ✓DRなど機器新製品の投入・拡販
- ✓医療ネットワークの確実な商談獲得
- ✓内視鏡新製品の拡販

ドキュメントソリューション

国内コピーボリュームは順次改善、欧米向け機器輸出が下げ止まり回復へ

- ✓アジア・中国地域の早期回復
- ✓ApeosPort- シリーズによる競争力の強化
- ✓経営革新活動の効果実現

2009年度業績予想

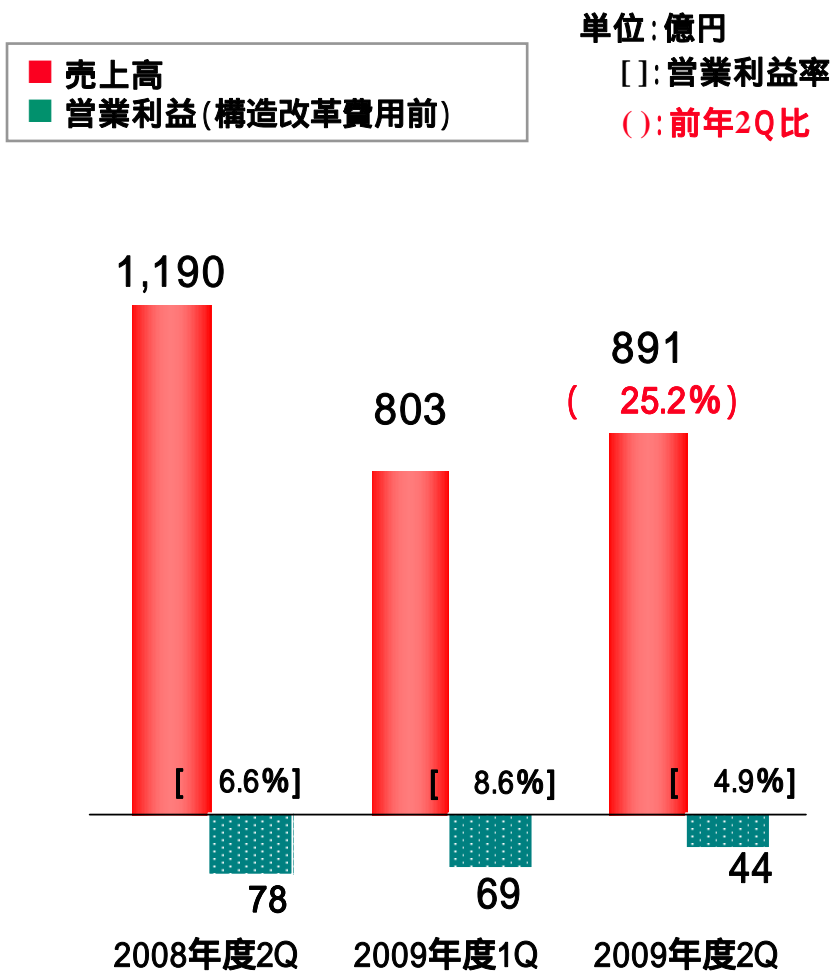


単位: 億円	2008年度 通期 実績		2009年度 通期 予想		対前年 増減 (%)
売上高:	100.0%	24,343	100.0%	23,000	-5.5
イメージ		4,104		3,500	-14.7
インフォメーション		9,461		9,500	+0.4
ドキュメント		10,778		10,000	-7.2
構造改革費用前 営業利益	2.9%	708	2.4%	550	-22.3
構造改革費用		335		1,450	-
構造改革費用後 営業利益	1.5%	373	-3.9%	-900	-
税金等調整前 四半期純利益	0.4%	94	-4.0%	-930	-
当社株主帰属 四半期純利益	0.4%	105	-2.6%	-600	-
1株当たり当社株主帰属 四半期純利益		21.10円		-122.80円	-143.90円
為替: 米ドル		101円		93円*	-8円
ユーロ		145円		132円*	-13円

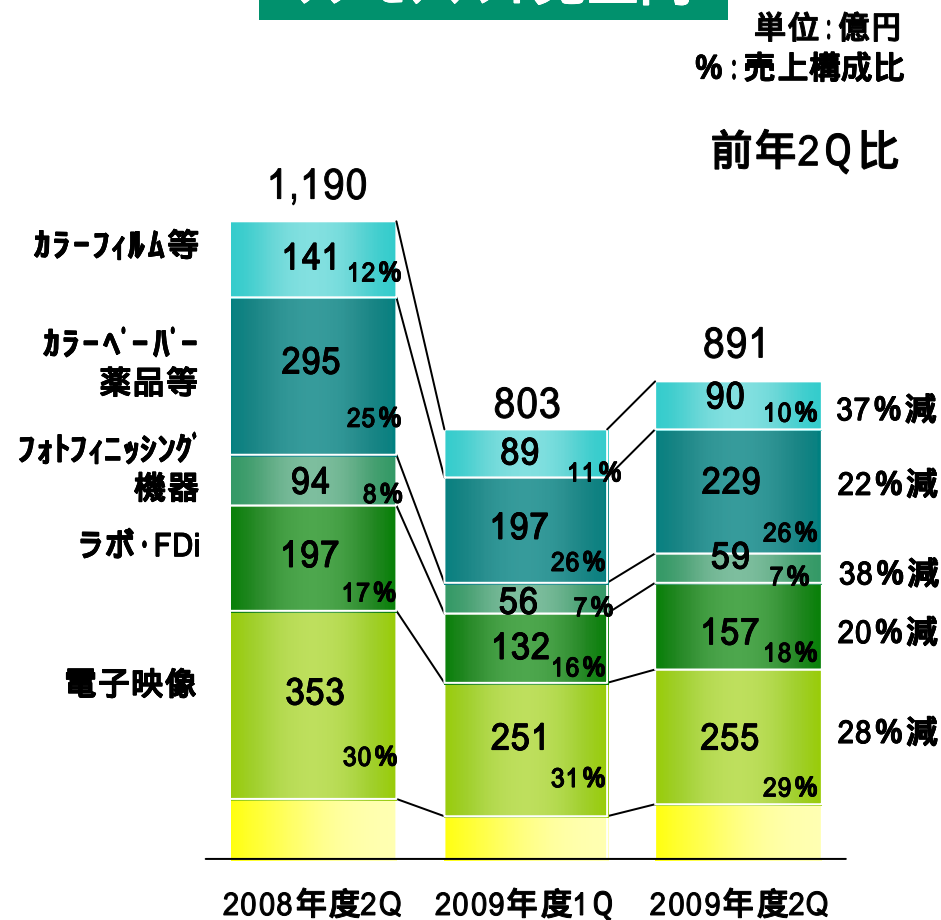
* 3Q以降、米ドル90円、ユーロ130円の前提 18

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益



サブセグメント売上高

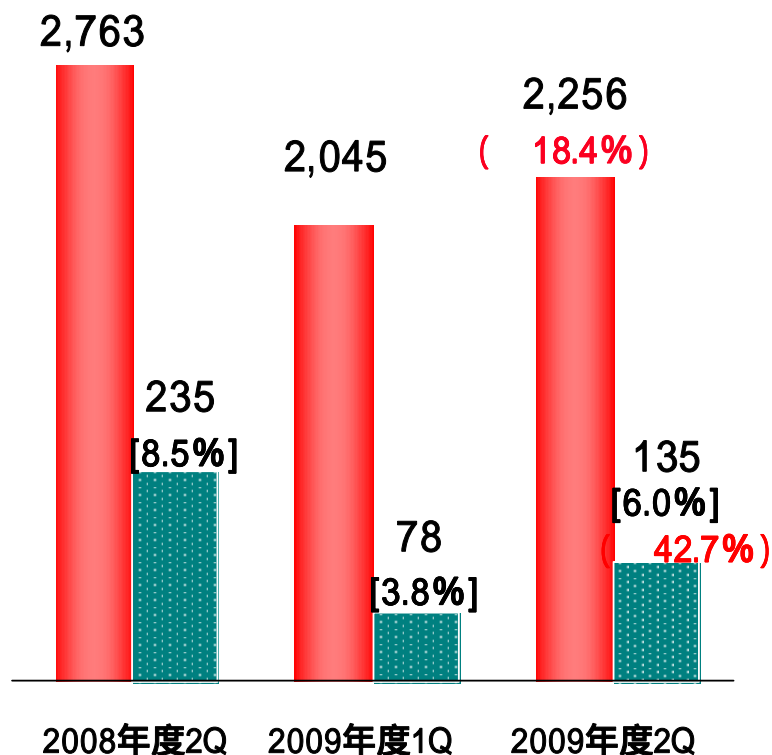


■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益

■ 売上高
■ 営業利益 (構造改革費用前)

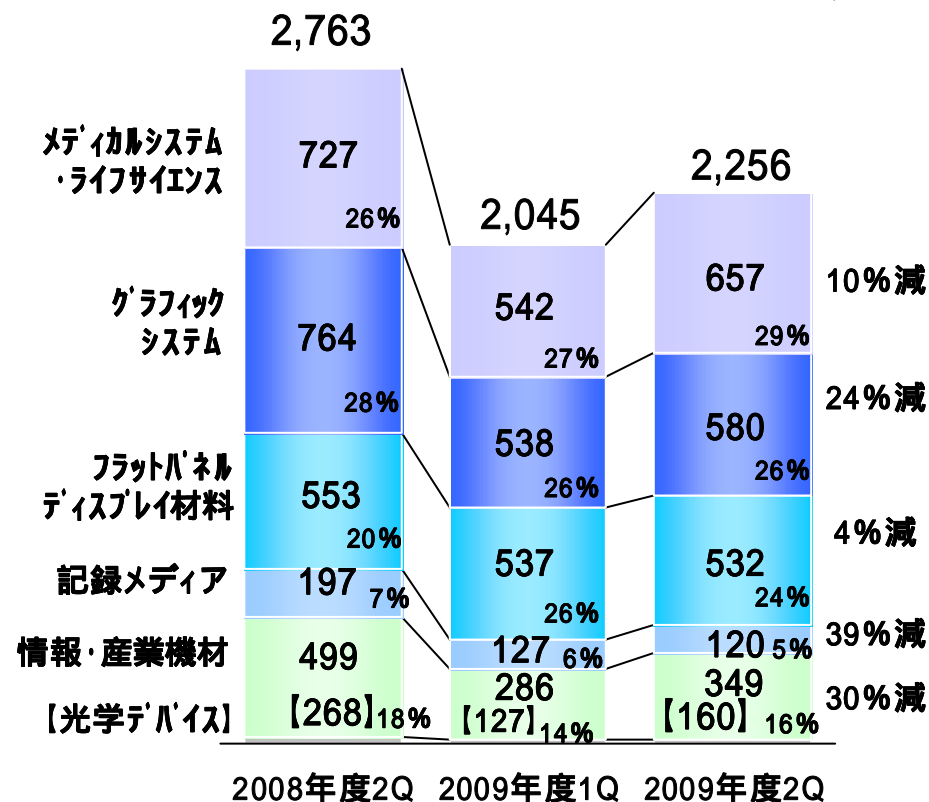
単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年2Q比



サブセグメント売上高

単位: 億円
 %: 売上構成比

前年2Q比

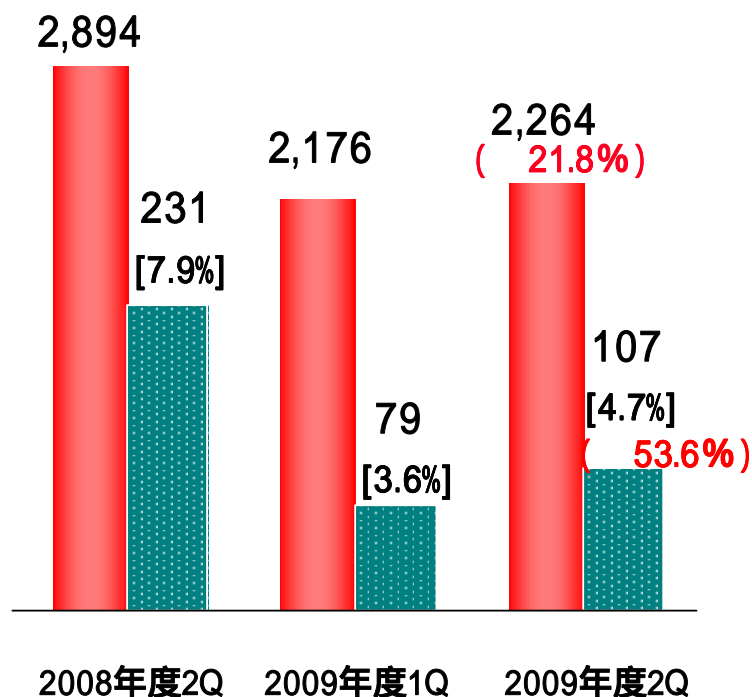


■ ドキュメント ソリューション

売上高*・営業利益

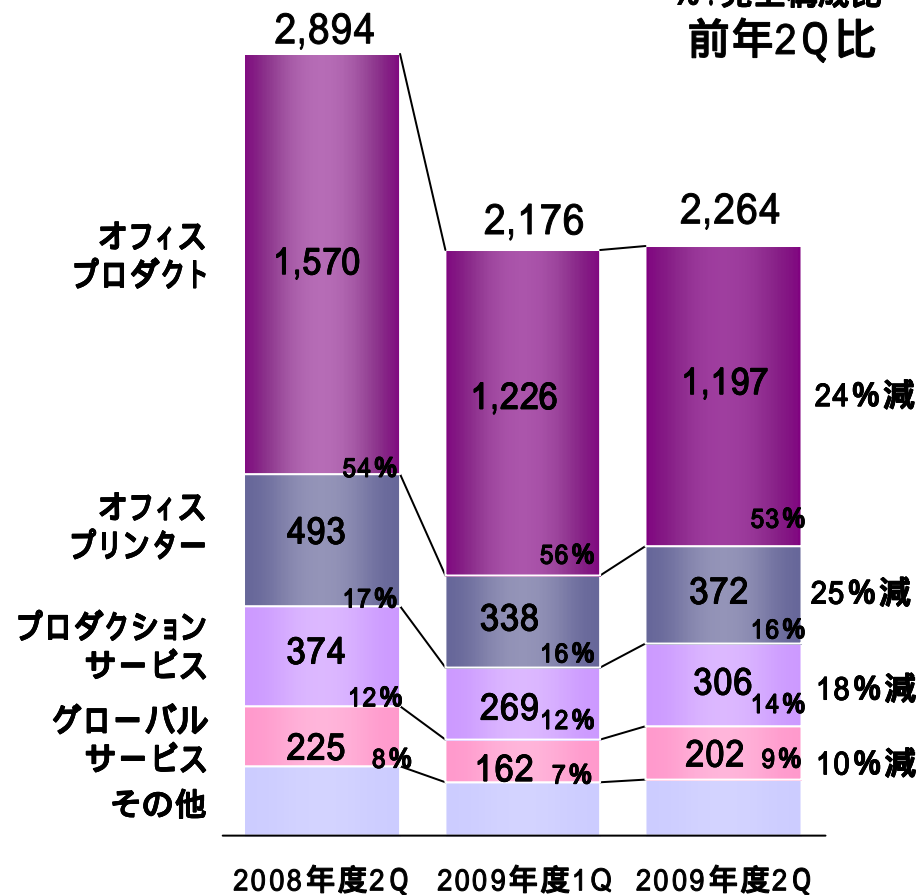
■ 売上高
■ 営業利益 (構造改革費用前)

単位: 億円
 []: 営業利益率
 (): 前年2Q比



サブセグメント売上高

単位: 億円
 %: 売上構成比
 前年2Q比



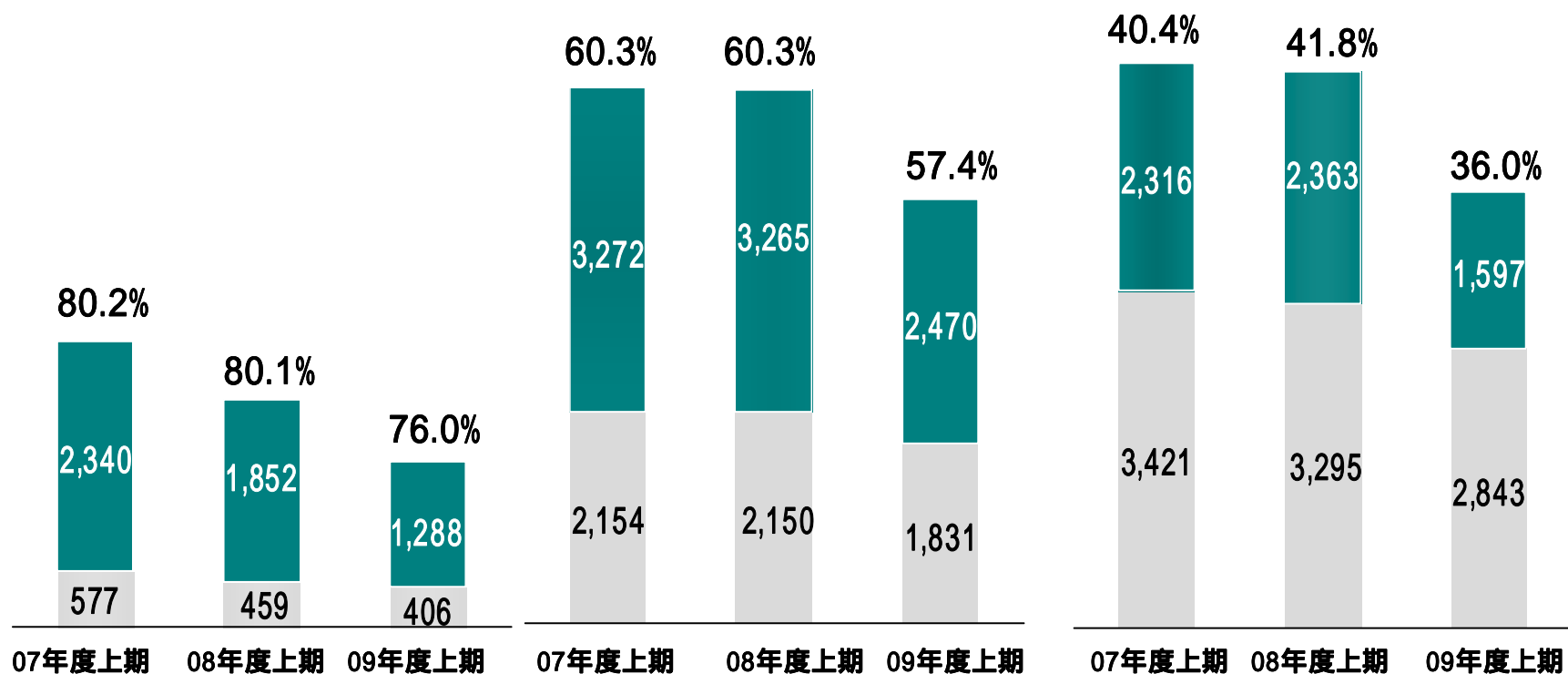
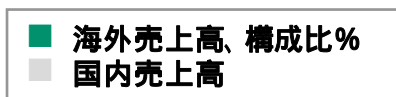
(単位: 億円)

■ 海外売上高

イメージ

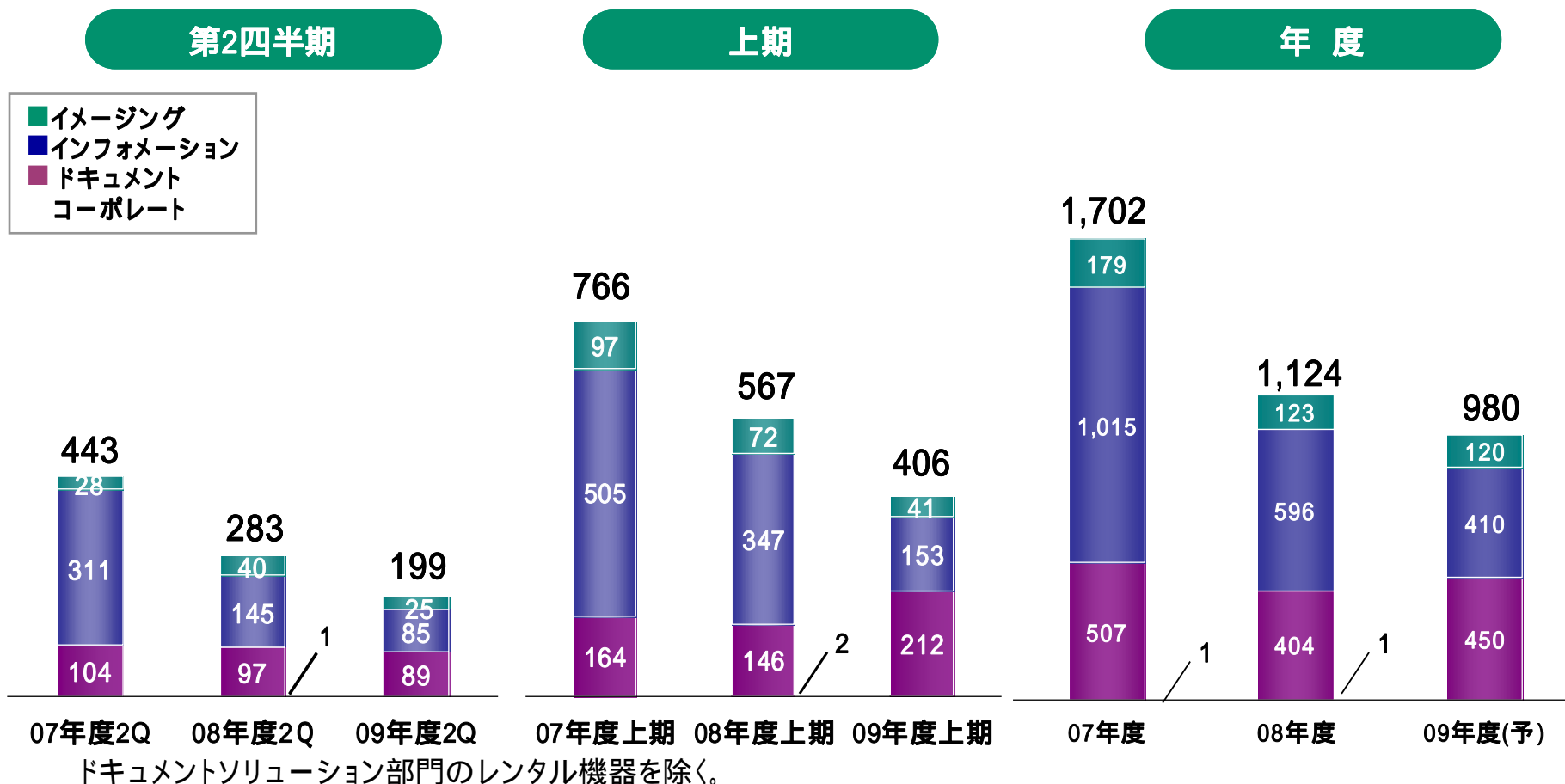
インフォメーション

ドキュメント



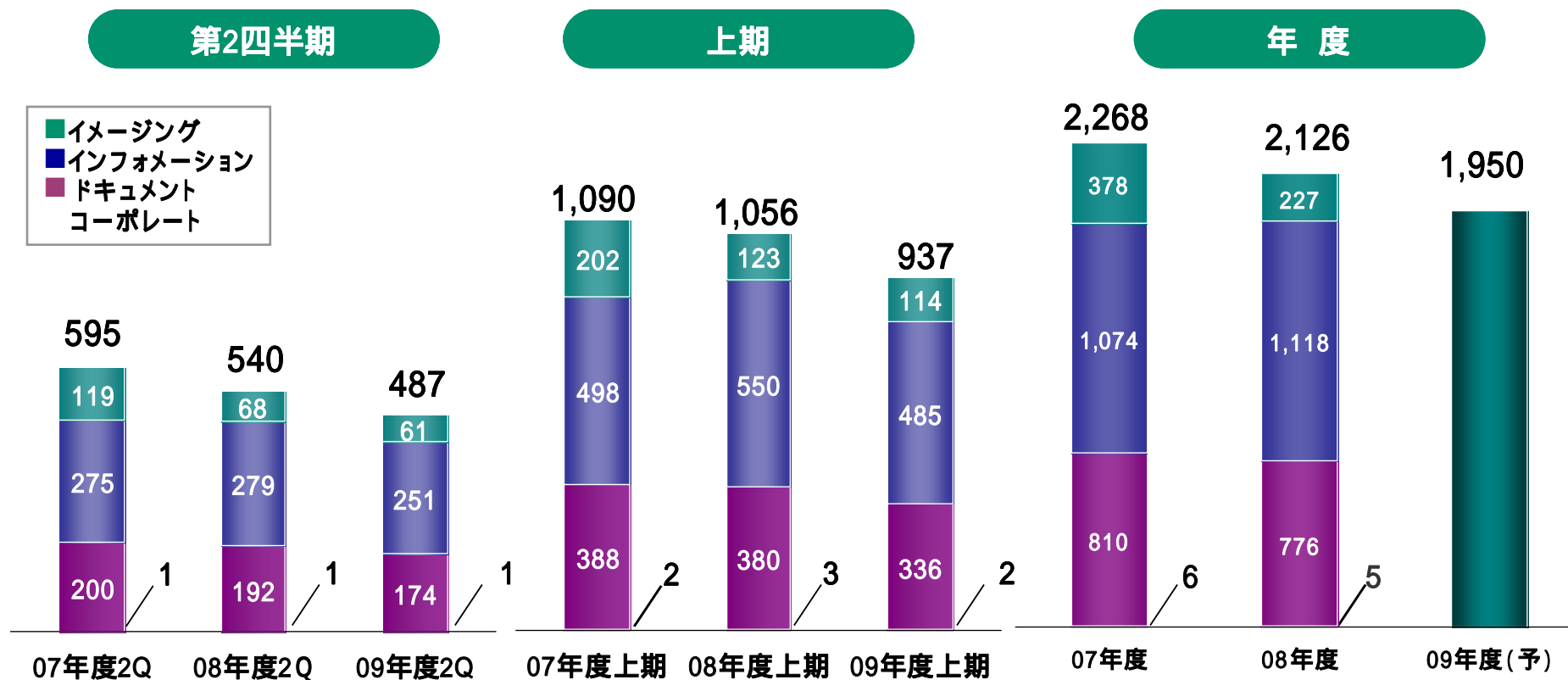
■ 有形固定資産の設備投資額

(単位:億円)



■ 減価償却費

(単位: 億円)



有形固定資産 の減価償却費

401	380	327	728	738	631	1,596	1,499	1,347
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------

ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

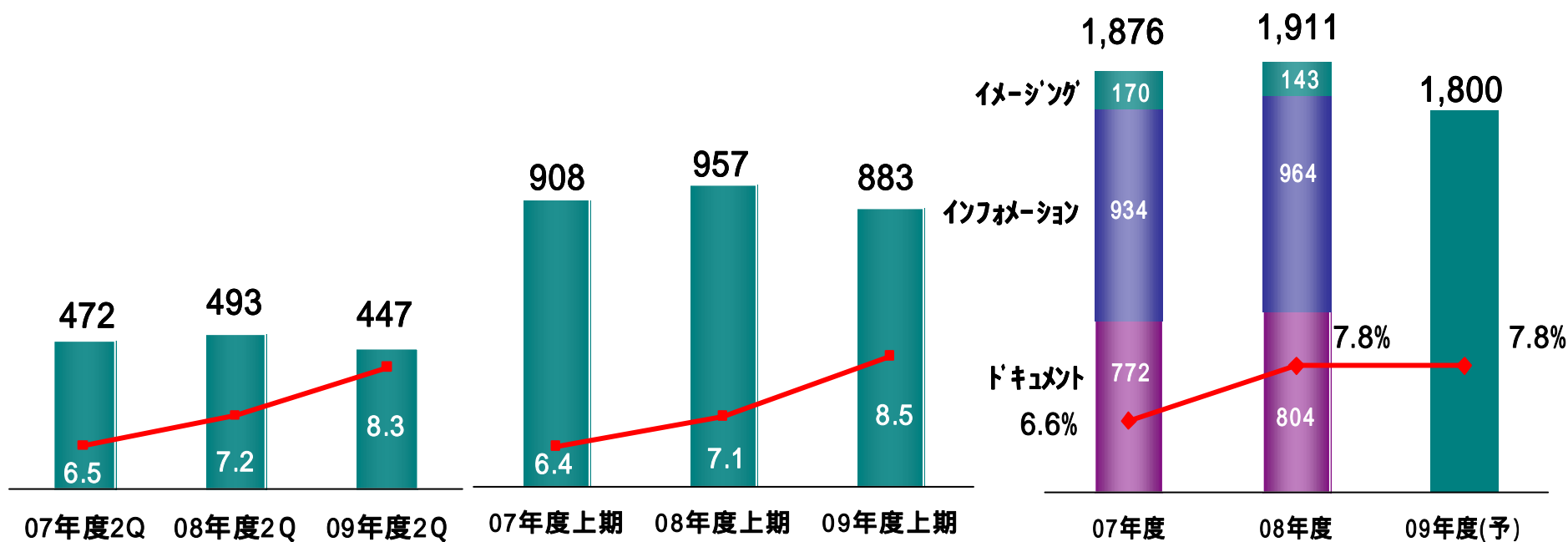
■ 研究開発費

(単位: 億円)

第2四半期

上期

年度



—■— : 売上高に対する研究開発費の比率 (%)

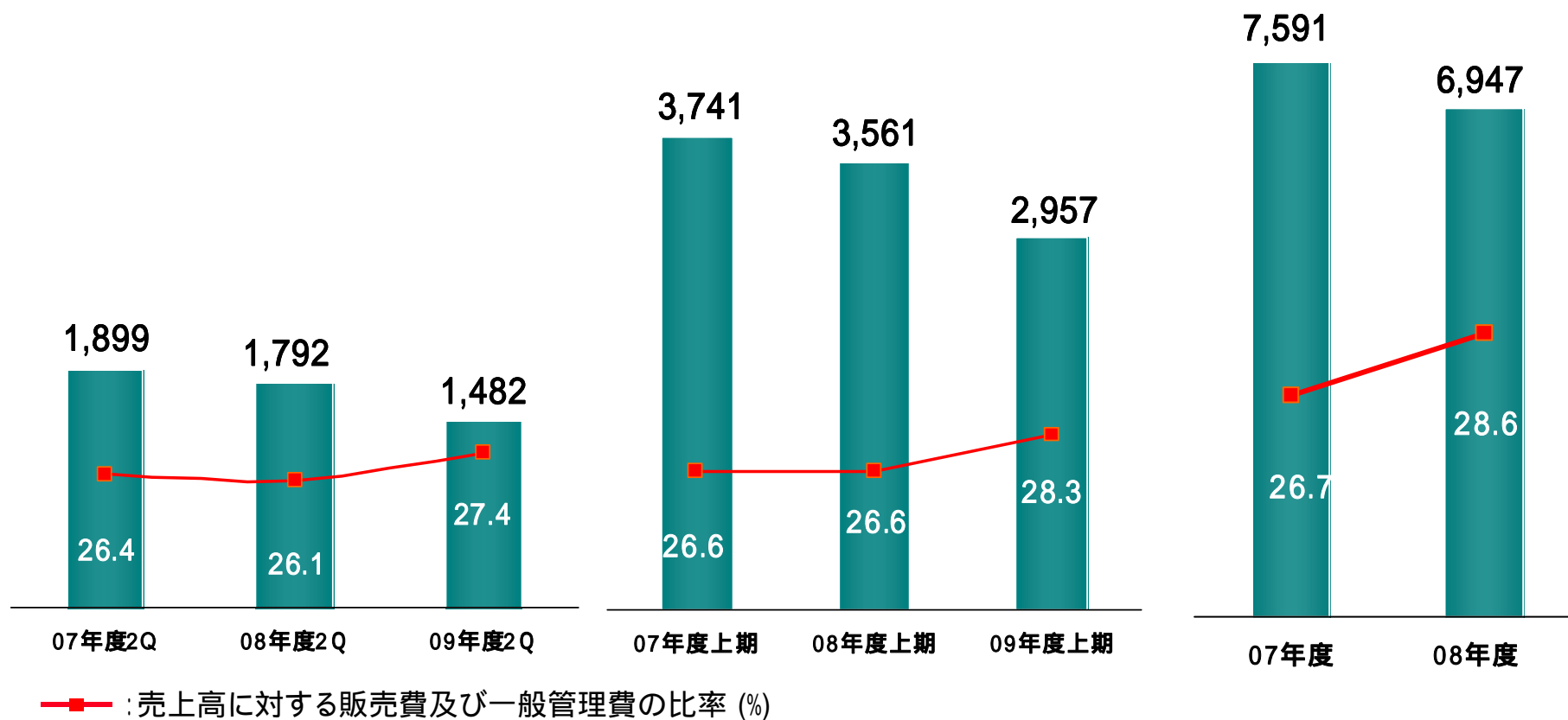
■ 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

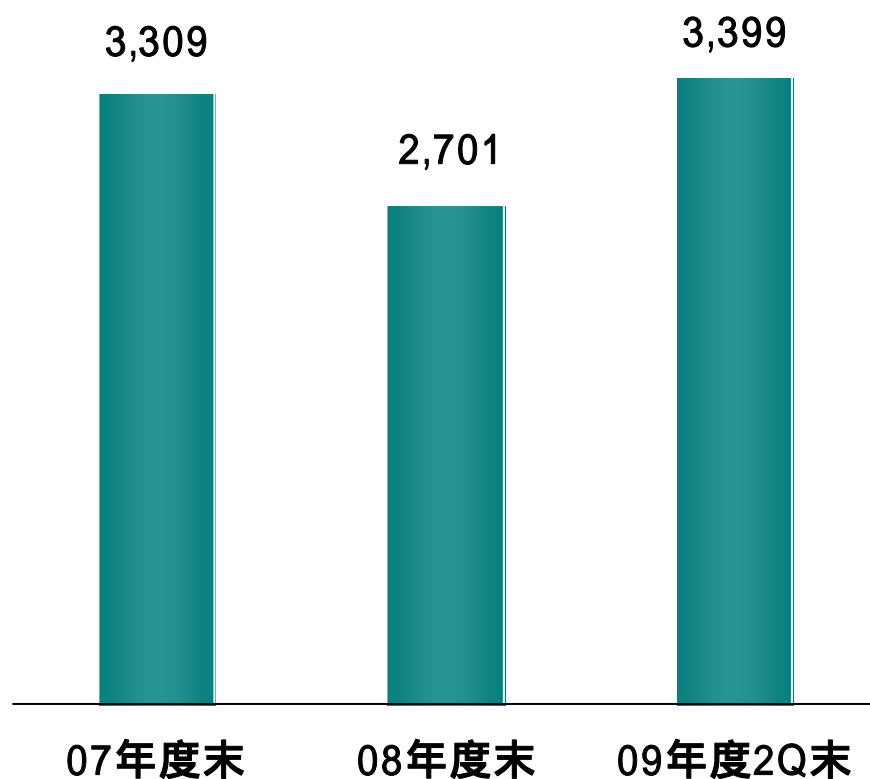
第2四半期

上期

年度



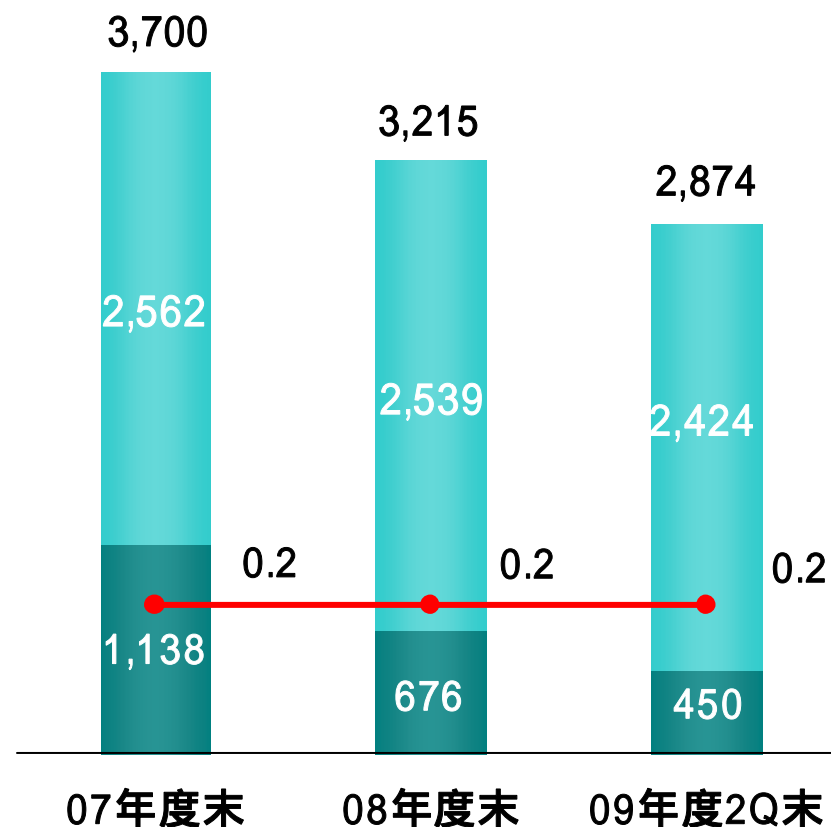
■ 現金及び現金同等物



■ 有利子負債

(単位: 億円)

■ 社債及び長期借入金
■ 社債及び短期借入金
— D/E レシオ (倍)

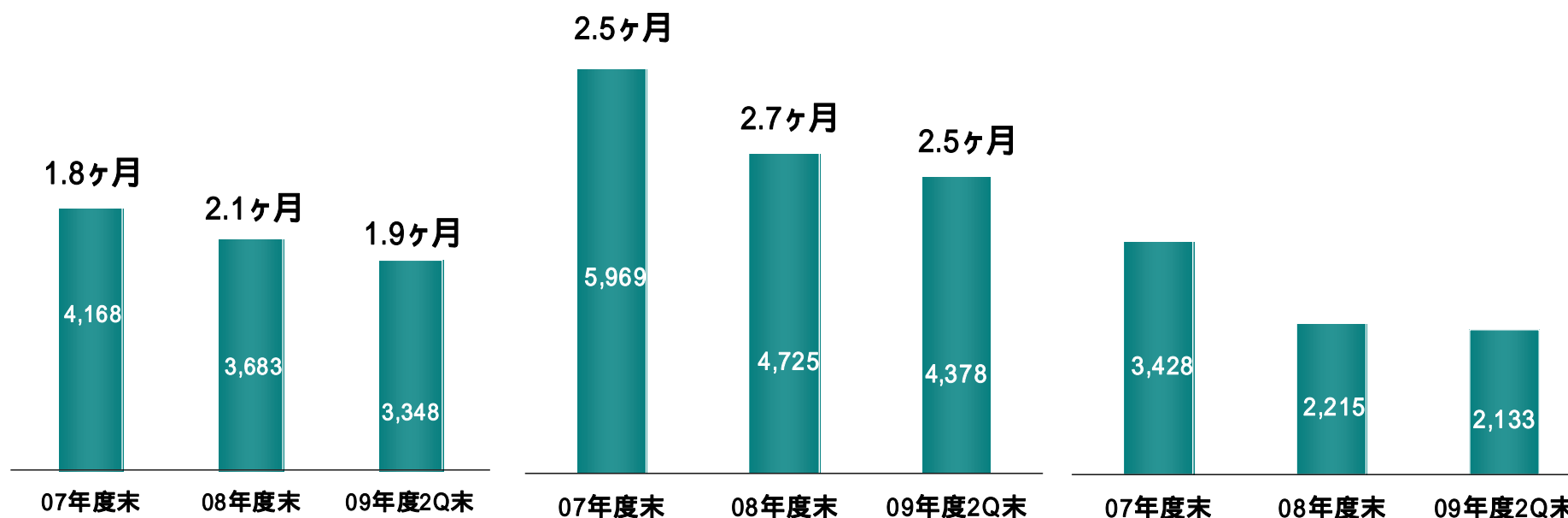


■ 棚卸資産

■ 受取債権

■ 支払債務

(単位: 億円)
(保有月数)



■ 富山化学工業(株)新薬開発スケジュール

開発番号	薬効	地域	開発段階					
			非臨床試験	P I	P II	P III	申請	剤形
T-3262 細粒	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本						経口*
T-614	抗リウマチ剤	日本						経口
T-3762	ニューキノロン系合成抗菌剤	日本						注射**
T-3811	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	日本						注射***
		米国						経口/注射
		欧州						
T-705	抗ウイルス剤	日本						経口
		米国						
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	米国						経口
T-5224	抗リウマチ剤	日本						経口
		海外						
T-2307	抗真菌剤	米国						注射
T-1106	抗ウイルス剤	日本						経口

* 錠剤は「オゼックス錠」として発売

** 発売中の「パシル点滴静注液」の用量追加

***経口剤は「ジェニナック錠」として発売

前回(2009年7月30日)公表時からの変更点: T-3262細粒 2009年10月製造販売承認取得(薬価未収載)

T-705 2009年10月よりP 開始

T-2307 2009年10月よりP 開始

■ 為替、人員、株主構成

● 為替

(単位:円)

	2008年度				2009年度		
	1Q	2Q	上期	年度	1Q	2Q	上期
米ドル	104	108	106	101	97	94	96
ユーロ	163	162	163	145	133	133	133

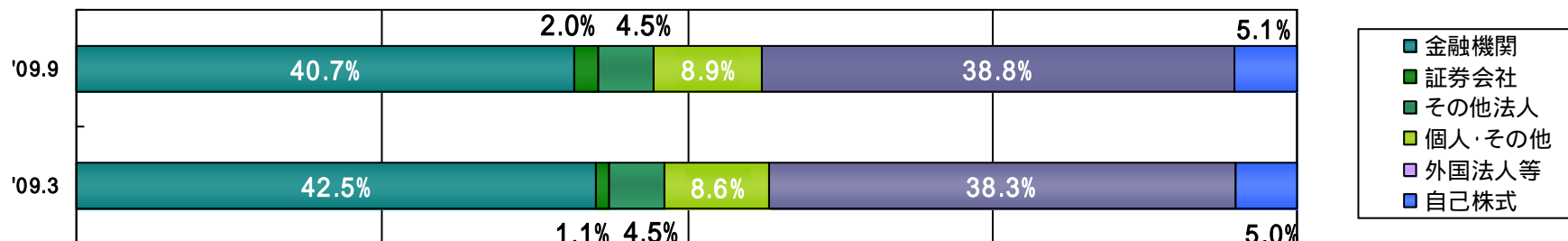
* 為替感応度(年間)
(1円の変動につき)

	営業利益
米ドル	9億円
ユーロ	7億円

● 人員

	2008.9末	2008.12末	2009.3末	2009.6末	2009.9末
連結	78,228	78,203	76,252	75,929	75,938

● 株主構成



FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>